

〔今物語〕待賢門院の堀川、上西門院の兵衛をと、いなりけり
〔平家物語〕祇王事

太政の入道は、かやうに天下をたなごゝろのうちになぎり給ひしうへは、世のそしりをもは、からず、人のあざけりをもかへりみず、ふしぎの事をのみま給へり、たとへばそのころ京中に聞えたるまらびやうしのまやうずぎ王ぎ女とて、おとひあり、とぢといふまらびやうしがむすめなり、

〔倭名類聚抄二〕姉 爾雅云、女子先生爲姉、反女兄、和名阿彌、本紀私記云、與兄同、九字、

〔箋注倭名類聚抄一〕原書女子上有男子謂三字、白虎通、姊者咨也、釋名、姊積也、猶日始出、積時多而明也、按說文、姊、女兄也、故此云一云女兄也、中姊訓伊呂禰、見神代紀下、其他尙多、故此云與兄

同、按伊呂禰、女子謂同母姊、男子謂同母兄之稱、若男子謂同母姊妹、則稱伊呂毛、古事記云、阿治志貴、高日子根神、其伊呂妹、高比賣命、是也、據仁賢紀云、古者不言兄弟、長幼、男以女稱、妹、是可證、不必論、長幼也、若泛謂諸女兄、宜稱阿彌、是阿爾米之急呼、即兄女之義也、

〔伊呂波字類抄安〕姉ア子亦イロ子 女兄同伊人倫 姉イハシ、ア子、イロ子、爾雅云、女子先生、

〔倭訓栞前編二〕あね 常に姉をいへり、神代紀に、姉をなねとよめり、皇代紀に、兄をあねとよめるも多し、あにの轉語成べし、信州甲州にては、婦女はすべてあねと呼り、

〔物類稱呼一〕姉あね 九州にては、ほうぢよといふ、上總房州にてな、といふ、兄弟に限らず、目いふ、

〔日本書紀神代〕素戔嗚尊對曰、吾元無黒心、但父母已有嚴勅、將永就乎根國、如與姉相見、吾何能敢去、是以跋涉雲霧、遠自來參、不意阿姊翻起嚴顔、